

2022年阜城会総会

【第2部】「1の期の会」企画動画視聴会(懇親会)

(1)パネルディスカッション『コロナ禍を語る ～変化の先に見えてきたもの』

<パネリストプロフィール>

丹羽 淳子(41期)

1996年同志社大学文学部卒業後、販促メディア事業企業に入社。2000年前職時代に不動産業界に携わった縁で、不動産デベロッパーへ転職。企業広報や CI 活動、不動産広告業務から不動産実務など計3社の企業で担当。2013年イタリアにてAIS ソムリエ資格を取得し、帰国後ワイン輸入販売企業に転職するも2015年にイタリア共和国のマルケ州に移住。



渡伊当初の3年程度は日本企業からの業務を請け負いながら、言語習得と生活順応に勤しむ。その後はフリーランスで日本からの旅行者の方々のアテンドや、イタリア食材の輸入コンサルタントや日本企業のSNS運営サポート、イタリア生活に関するコラムの執筆などを日本向けの仕事として行う。また、現地での仕事としては食品卸企業に数年勤務した後、昨夏より飲食サービス業(主にワインや和食を担当)に携わっている。

週末はイタリア人夫の実家に出向きマンマが腕をふるった食事を楽しむなど、典型的なイタリアンライフスタイルを踏襲中。

團野 桂(41期)

附中在学中から途上国の健康問題や社会問題に関心があった。奈良県立医科大学卒業後は大阪府で内科医師として勤務した。全人的医療、つまり疾病の原因である臓器を診るだけでなく、その人の社会経済的背景やQOLを包括した医療を勉強するために公衆衛生学を志した。大阪大学医学部公衆衛生学博士課程では、大阪市西成区あいりん地域のホームレス、日雇い労働者、生活保護受給者やその地域で献身的に働くNPOと接した。



その後渡英し、ロンドン衛生熱帯医学大学院の修士課程中に世界保健機関本部(ジュネーブ)でインターンとして働いた。その時に「この綺麗で設備が整った環境では実際に途上国で貧困に喘いでいる人々のことは何も分からない」と感じ、帰国後に国境なき医師団に就職した。以降アフリカ、中東、アジアに計8回派遣されグローバルヘルスが抱えている様々な問題を経験した。

臨床医学と公衆衛生学は医療サービス提供側が確立したもので、患者さんつまり医療サービス受療者側の視点が欠けていると感じるようになった。そこで再度渡英し、ロンドン大学で医療人類学修士課程を修了した。日本では中学生の子供の成長を応援しつつ、兵庫県で内科医師として勤務している。

森安 楽人(51期)

附中から附高へ進学。

2002年 筑波大学体育専門学群入学

2008年 筑波大学体育研究科修了、共同通信社にスポーツ記者として入社

大阪支社時代は高校野球、相撲、ゴルフ、プロ野球、Jリーグなど幅広くカバー。

2011年は人事交流で大阪支社社会部に在籍していたため、東日本大震災や紀伊半島豪雨などの災害取材も経験した。

東京本社に戻ってからは主にプロゴルフを担当し、マスターズトーナメントなどを取材。高校時代からプレーしてきたバドミントンも担当し、リオデジャネイロ五輪では日本勢初の金メダル獲得の瞬間に遭遇した。2018年からプロ野球担当に戻り、ロッテ、NPB、ヤクルトと歴任。東京五輪にも少し関わった2021年は、ヤクルトの6年ぶりの優勝を追いかけた。



杉山 拓人(51期)

附中→熊本マリスト学園高等学校

2002年 横浜国立大学教育人間科学部入学

2006年 株式会社星光堂入社

CD・DVD卸として、家電量販店や音楽専門店、書籍併売店などを担当。2007～2009年仙台勤務、それ以外の期間は東京勤務。

2009年 結婚、翌年長男誕生

妻もフルタイム勤務で、0歳8ヶ月で保育園入園。送り迎えや家事はその都度できる方がやるスタイルを続ける。

2012年 双子の妊娠がわかり、妻の実家がある福岡への移住・転職を決意。

2013年 株式会社ジーコム入社、双子誕生

ジーコムでは調査研究部に所属し、福岡・九州の生活者の行動・意識把握の調査活動を行うマーケティングリサーチ業に携わる。

2014年 ファザーリングジャパン九州(以下FJQ)入会 2016～2017年理事

「『よい父親』ではなく『笑っている父親』を増やす！」をミッションとするNPO法人。

父親であることを楽しみたいパパの支援を目的に、育児支援活動やセミナー、遊び方ワークショップ、絵本イベント、パパと子どものみのパパキャンプなどを行う。

2014～2019年 幼稚園パパの会活動、2017年から小学校おやじの会活動 2019年より副会長
おやじの会では流しそうめんやカレー作りデイキャンプ、餅つき、祭りの出店などを主催。



大岡 知生(61期)

附中から附高へ進学。

2012年 附高卒業。3年生の時の附高祭に命を懸ける。

2016年 東京大学卒業。薬学部で骨粗鬆症について研究。

2018年 東京大学大学院卒業。工学系研究科で途上国開発について研究。「国際機関で働きたい！」とぼんやり持っていた夢を叶えるため、アジア開発銀行(ADB)で半年間の長期インターンを経験。ここでの経験を通じ、むしろ「自分が貢献したいのは世界のためではなく、日本のため」と気づき、国家公務員を目指す。

2018年 経済産業省入省。入省後2年間は原子力政策に従事。資源に乏しい我が国に、安定・安価・環境負荷の少ないエネルギーを供給するため、日本全国にある原発の再稼働に取り組む。

2020年 部署異動し、気候変動対策の外交政策を担う係長として着任。

2021年 同部署 室長補佐として着任。日米気候変動パートナーシップ、日EUグリーンアライアンス、G7/G20/QUAD他、数多くのバイ・マルチの国際交渉を担当。10/31~11/13英国グラスゴーで行われたCOP26に日本政府団として参加。日本の国益をかけて、日々最前線で戦っています。



野本 有香(61期)

附中・附高卒業後、大阪大学人間科学部で教育人間学を学びつつも、石橋でカフェを開業し、その運営に明け暮れる大学生活を過ごす。

2016年に同大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニー日本支社へ入社。経営コンサルタントとして、消費財やヘルスケア、自動車や物流まで幅広い業界にて、戦略策定や組織変革などを中心に様々な経営課題の解決支援を行った。

その中でも「人々の健康」に貢献する仕事に最もやりがいを感じ、2021年春より医療ビッグデータを主に扱う株式会社JMDCに転職。現在は製薬業界の方々と共に、潜在患者さんの掘り起こしや新薬の臨床開発の効率化といった領域での新しい医療ビッグデータ利活用策の模索や、医療従事者や患者さん・そのご家族に適切な情報を届けるための新規事業推進などに取り組んでいる。

現在、夫とはりねずみの「つの」と三人暮らし。

